

第4回

令和6年 8月24日(土) 午前10:00～12:00

教材番号：25 お父さんの子育てトーク！

～「父親」の楽しみを持ち寄ろう～ (アレンジ版)

実施機関・団体等	社会福祉法人 さくら福祉会 児童家庭支援センター コスモス
開催場所	フジタスクエア まるくる大野
対象者	子育て中、または子育て支援中の男性、産前産後の父親
参加者数	10人
託児	お母さんも同伴OKの託児あり
ファシリテーター	メイン： 中丸 直見さん サブ： 永谷 紀美子さん、西田 弘展さん、藤嶋 教子さん、森本 美鈴さん

● 講座の目的

昨年度の「お父さんの子育てトーク」に参加したお父さんや、親プロ参加のお母さんから、『お父さんの集まれる場所が欲しい！』と再リクエストを受けたことに加え、参加者に、日頃の奮闘や家族のルール・子育ての悩みなどを本音トークで楽しんでもらいながら、もっともっと「お父さん」を楽しんでもらいたい。

● 講座の様子

1. オリエンテーション

主催者あいさつ、親プロの説明、ファシリテーターを紹介。



2. アイスブレイク

絵本「へんなおにぎり」、「かえるくにきをつけて」をメインファシリテーターが朗読。

参加者に、どちらの絵本が好きか、喋らずに並んでもらった後、簡単に自己紹介してもらう。

<この絵本(2冊)を朗読をした理由>

- ・少し不思議な世界観のある本を読んで、まずはリラックスしてもらう。
- ・お父さんに自分の好きな絵本を読んでもらいたい。

グループに分かれて席に着き、グループ内で自己紹介。



3. アレンジ版のプログラムに沿って進行

「父親」であることを最初に実感したのはいつですか？その時の気持ちは？」や、日常生活の中で「楽しかったこと」、「うれしかったこと」、また「悩み」や「疑問」を付箋を使ってグループ内で話し合い、グループごとの結果を全員で共有した。



* 3つのグループが偶然子どもの年齢に近いお父さんに分かれた。
その結果、子育ての喜び、楽しみ、悩みなどが同じで、話が盛り上がり共感できた。

4. 最後に、参加者1人ずつ「今日の気づき」を発表



お母さんと一緒に
工作やおもちゃで楽しむ！

メインファシリテーターから絵本のお土産をいただく。

「お父さんが自分の好きな本を直感で選んでもらう」と、悩みながらもとても楽しそうに選ばれていました。

● 参加者の感想 (一部抜粋)

- ・正直、妻に勧められて断れずに参加したが、本当に来てよかった。
- ・父親同士の励まし合いの場所が必要と感じている。また参加したい。
- ・一人で悩み、妻と衝突することもあり、自分を責めることもあった。日々を振り返ることができ、参加者同士で喜びや悩みを共感できた。「みんな頑張っている」と感じることができた。
- ・2時間が短く感じ、話したりないくらい楽しかった。
- ・これからの子育てを楽しみたい。
- ・悩み事は、ママと同じだなあ。
- ・パートナーへの思い（負担を軽減してあげたい、不満など）共有し合えた。
- ・一年前の講座で一緒だった方と再会でできて、嬉しかった。

● ファシリテーターの感想 (一部抜粋)

- ・帰宅後、ママとの会話が盛り上がりそうな会になった。
- ・お父さんの会の必要性を感じた。
- ・講座を進めるうちに、予定していた展開と違ってきたが、メインとサブが相談・連携をして時間内に終えることができた。臨機応変な対応ができた。
- ・アイスブレイクでの朗読は、講座に入るための良い導入になっていた。
- ・参加者だけでなく、ファシリテーターも3つの約束を意識することが大切。そのことを参加者に伝えることで、安心感を与える。

■ 主催者から

お母さんと子どもさんが、託児室で2時間待ちくたびれていて、終了間近には表情が重たくなっていたが、相談員が、「お父さん達は素敵な発言をして、講座を楽しまれているようですよ」と伝え、一瞬で表情が明るくなり安心をされた。自宅に帰られた後、今日の「家族内で会話」のひとつになるといいな・・・と感じた。